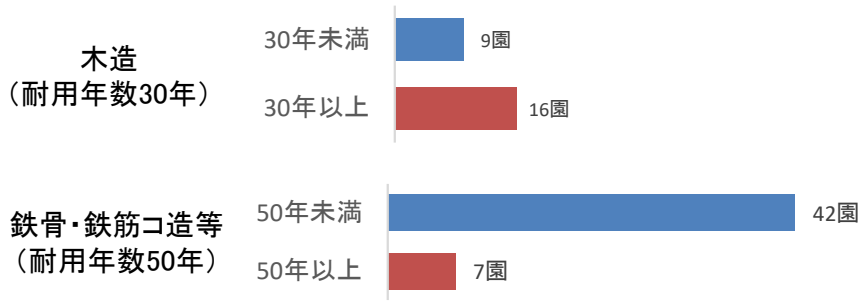
若葉保育園の閉園計画（案）について

議事資料１－２

１ 配置計画：なんのために行うの？《計画策定の背景、現状と課題》

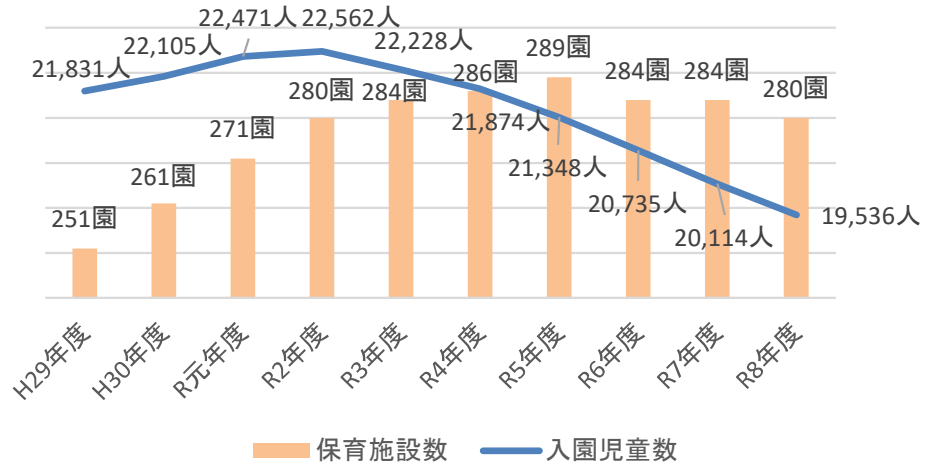
- 本市では、多くの市立保育園で**老朽化等が進んでおり、保育環境の改善が喫緊の課題**となっています。
- 一方で、近年、民間保育施設の増加や入園児童数の減少が進むなど、待機児童対策に一定の目途が立つ状況となったため、**保育施策の重点を「量（受け皿の増加）」から「質（保育の質の向上）」へ**転換していくことが必要となっています。
- これらの状況を踏まえ、**市立園の老朽化等の（環境面の）課題を解消**しつつ、地域の保育需給バランスを適正化するとともに、その過程で生まれる資源を活用することで、**より質の高い保育サービスを提供し続けていくため**、令和５年に第２次「市立保育園配置計画」を策定しました（第１次計画は平成30年策定）。

市立園の構造別・建築年数（2025年度末）



※耐用年数は、税法上の減価償却資産耐用年数を参考に設定したものであり、耐用年数を超えた施設がただちに使用できなくなるわけではない（全ての施設について耐震改修済みであり、安全性確保のための対応を行っている）。

新潟市における保育施設数・入園児童数の推移



１ 配置計画：何を行うの？　《適正配置の方向性、市立保育園の役割》

◎待機児童の発生が見込まれる地域では、定員拡充（民間の力を活用）を行うとともに、保育ニーズの減少が見られる地域では、市立園の統廃合等を進めることで、**量の確保・適正化**を図ります。

◎保育サービスの提供に民間の力を最大限活用することで、**多様な保育サービスの提供**と**持続的な行財政運営の実現**を図ります。

◎市立（行政）は、地域における子育てのセーフティネット機能をより果たしていくとともに、質の向上等に向けた支援機能を強化することで、**市全体の質の確保・向上**を図ります。

1 配置計画：最終的にどうするの？　≪計画の目標、全体像≫

【計画の目標】

施設	第1次計画策定（H30年）から概ね20年後に、計画策定時（87施設）の半数程度とします。 **（87施設 ⇒ 45施設程度）**
職員	施設の減少と併せて適正配置を進め、正職率について同規模政令市と同等の50～60%とします。 **（正職率 約3割 ⇒ 約5～6割）**

【参考　市立保育園配置計画策定以降の統廃合等の状況】

年度	内容	備考
2019	宮浦乳児保育園を万代保育園に統合	2020.2に統合
2022	曽野木保育園・第二曽野木保育園を閉園し、私立保育園に統合	2022年度民営化
2023	新金沢保育園、古川保育園、敷島保育園を閉園	2023年度末閉園
2024	石山保育園、山ノ下保育園を閉園	2024年度末閉園
2025	三ツ森保育園、白山保育園、大江山保育園、新飯田保育園、山田保育園を閉園	2025年度末閉園
2026	太夫浜保育園、大山保育園、山潟保育園、寺地保育園を閉園予定	2026年度末閉園予定
2027	亀田第一保育園・亀田第三保育園を閉園し、私立保育園に統合	2027年度民営化予定

1 配置計画：どの施設をいつ対応するの？

・各施設の具体的な対応時期については、施設の老朽化状況や児童数の推移状況、近隣施設での受入れの可能性などを踏まえて順次検討します。

・そのなかでも、既に耐用年数が超過している園【下表赤枠】や利用児童数が20人（児童福祉法上の保育所認可基準の下限）未満の園は、**早期に対応が必要な施設**と位置付け、優先的に対応を進めることとしています。

市立保育園の耐用年数（税法上）到達時期一覧

区	～R4			R5～R9		R10～R14			R15～R19		R20～		
北区	太夫浜			早通北	越岡	ちとせ	かやま	すみれ			早通南	木崎	
				太田		二葉	若葉						
東区	大山	中野山	第二中野山			山木戸	中山				大形	桃山	
	東中野山												
中央区	しなの	山潟		入舟		長嶺	流作場		ロータリー		八千代	万代	沼垂
											鳥屋野		
江南区	両川	ことぶき	亀田第一	亀田第三		横越双葉	亀田第五		横越小杉		横越中央	亀田第四	
	亀田第二												
秋葉区									新津東	金津	矢代田		
									小須戸				
南区				臼井	あじほ	諏訪木	根岸	大通	小林		白根	大鷲	
				にししろね		月潟							
西区	内野	上五十嵐	坂井	大野	寺地				木場		興野	黒埼なかよし	
	坂井輪	小針											
西蒲区						岩室	巻	松野尾	漆山西		和納	巻つくし	すわ
						七浦	中之口				漆山東	かきの実	

※耐用年数は、税法上の減価償却資産耐用年数を参考に、木造30年、鉄骨・鉄筋コ造50年で整理。
下線は令和8年4月時点で耐用年数を超過している施設。（但し、全ての施設について耐震改修済みであり、安全性確保のための対応は行っています。）

利用児童数が20人未満の園を早期に対応が必要な施設とする理由は？

◎「集団としての活動の充実」など、児童にとって良好な保育環境の確保が課題となっています。

・日々の遊びや行事などで異年齢での合同保育の場面が多く、同年齢のこども同士の関わりの中で育つ力が育みにくいケースがある（年齢によるルールの理解度、大人数で楽しめる活動が難しい）。

・異年齢との合同保育となる場合、年齢ごとに生活リズムの差があり、個別対応が必要となる。

・対大人との時間の割合が多くなってしまう。

少人数園での工夫

〇意図的に同年齢との活動と、異年齢との活動の時間を設けています。

〇こども同士が育ち合える環境を整え、経験の幅が広がるような遊びを実践しています。

少人数の施設だからこそのメリットはあるものの、集団としての活動や経験の充実の難しさなど、児童にとって良好な保育環境の確保が課題となっているほか、保育士も少人数となることから施設運営の負担が増すことが考えられるため、早期に対応が必要な施設と位置付けています。

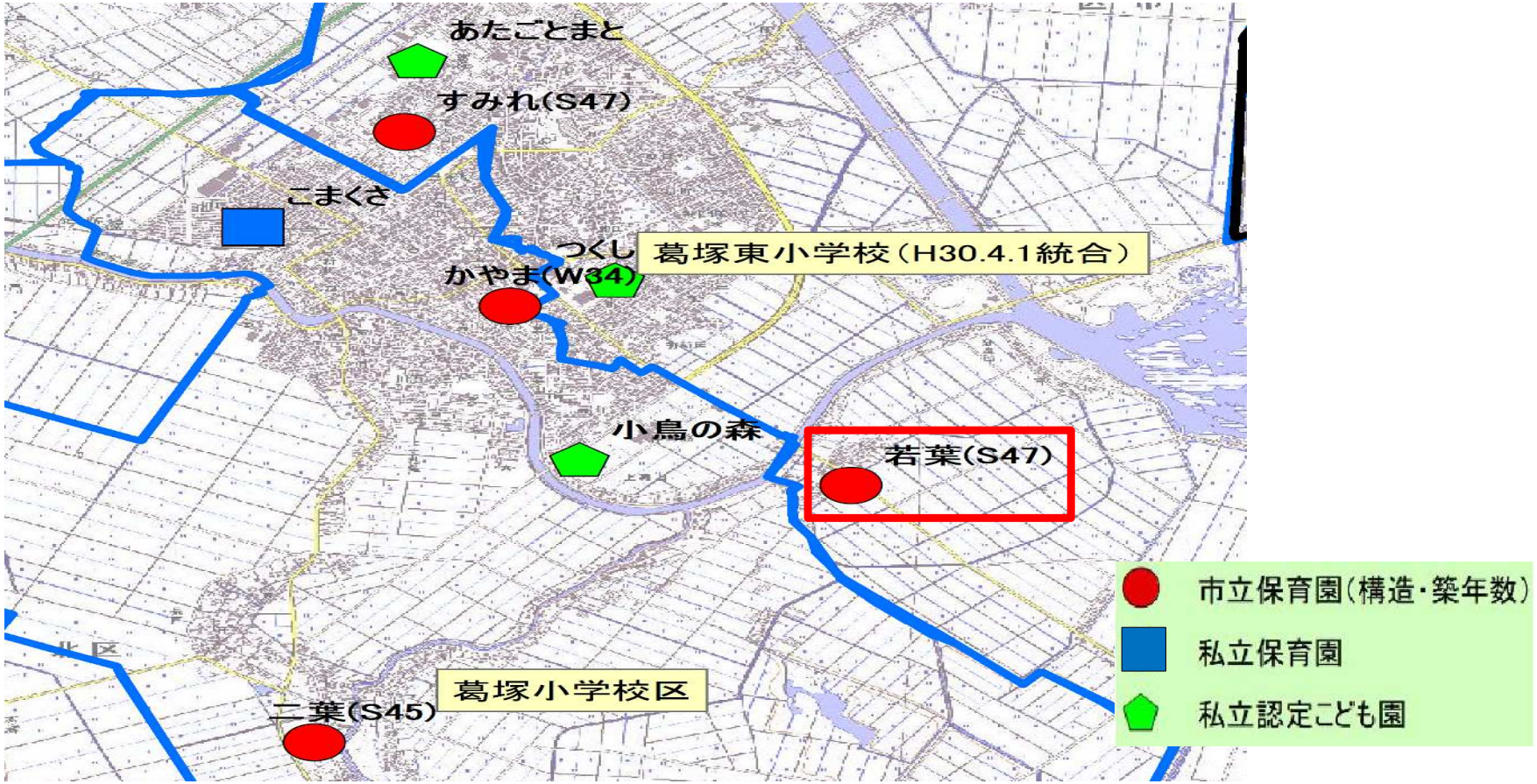
2 閉園計画(案):若葉保育園の状況と閉園調整について

○ 若葉保育園は、築47年(鉄骨造)であり、**老朽化が進んでいる**。

○ また、数年後には**児童数が20人を下回る見込み**(R8.4時点23人)であり、「集団としての活動」の充実など、児童にとって良好な保育環境の確保が課題となっている。

以上の状況を踏まえ、今後閉園に向けた調整を進めていくこととした。

【参考】若葉保育園周辺　教育・保育施設位置図



2 閉園計画(案):閉園までのスケジュール等について

(1)閉園時期にかかる基本的な考え方

○ 特に3歳以上児の保育継続性に配慮し、3歳児が卒園できる**令和10年度末閉園**を基本案とします。

○ ただし、令和9年度・令和10年度は、児童数が少ない状況が見込まれることから、
在園児保護者の意向を確認し、閉園時期を早めることも検討します。

(2)閉園公表から閉園までのスケジュール

R8年度	R9年度※4	R10年度※4
閉園公表(10月頃)※1後から受入停止※2	→	閉園(3月)※3

※1　R9.4入園用の入園のてびきにて、閉園予定時期を公表。
※2　閉園公表後の年度途中入園(R8.12入園)から、原則、新規入園は受け付けない。ただし、在園児のきょうだいのほか、通常の利用調整等の結果、他に受入先がないなど、特別に配慮すべき児童等については、柔軟に対応。
※3　令和10年度末の閉園を目途とするが、在園児保護者の意向を確認し、閉園時期を早めることも検討する。
※4　土曜日の保育について、利用児童数が少ない状況となった場合、市立かやま保育園と共同での実施を検討する可能性がある。

2 閉園計画(案):閉園までのスケジュール等について

(3)公表から閉園までの園児推移について

【各年度在園児数見込み】

R8年度 (8月1日時点)	R9年度	R10年度	R11年4月 (転園)
0歳(0人)	1歳(0人)	2歳(0人)	3歳(0人)
1歳(6人)	2歳(6人)	3歳(6人)	4歳(6人)
2歳(4人)	3歳(4人)	4歳(4人)	5歳(4人)
3歳(3人)	4歳(3人)	5歳(3人)	
4歳(4人)	5歳(4人)		
5歳(6人)			
23人	17人	13人	10人

※年度途中の入園及び転園は考慮していない。